

- ・4月5日(火) 入学式後の保護者集合による総会は、コロナウイルス感染拡大の状況を総合的に勘案し、相互の身体安全第一から、中止としました。決算書、予算書、事業計画を保護者の皆様に郵送し、みなし総会としました。
- ・10月24日(月)～10月28日(金)に、教員と保護者との個別相談会を実施しました。
- ・茨城支部会、東北支部会は、参加申込者僅少のため、個別対応といたしました。
- ・11月26日(土)27日(日) 防災士養成研修講座にて、11月実施では12名が合格し、学習支援費として、教本代・受講料を後援会から支援しました。
- ・3月19日(日) 学位記授与式への保護者参加については、決定次第、ホームページでお知らせします。

Check! 昨年9月に後援会事務局専用ホームページを開設しました。

「会員相互の連絡を密にし、会員相互の理解と協力によって大学の教育研究事業等を支援することを目的とする」【作新学院大学後援会会則より抜粋】
今後、後援会事務局からのお知らせは、ホームページお知らせコーナー、ご依頼(みなし総会)等は、ホームページのお知らせから発信する予定です。今後の予定、過去の事業報告(コロナ禍以前)等も掲載しております。引き続き学生への支援を続けて参ります。

Check! 令和5年度茨城支部会、東北支部会を実施予定です。

就職相談、成績相談、大学生活相談等実施予定です。詳細は、次回後援会報、後援会専用ホームページにてお知らせいたします。

退職者挨拶



人間文化学部 教授 小黒 浩司

私は1998年4月に、当時一の沢にあった作新学院女子短期大学に着任しました。以後翌年の作新学院大学女子短期大学部への校名変更、清原へのキャンパス移転、人間文化学部の開設、東日本大震災、そしてコロナ禍など、紆余曲折、千変万化、山あり谷ありの四半世紀でした。後援会報の誌面を借りて、お世話になった皆さまにお礼申し上げます。

本学では、大学で学びたいという強い意志があるにもかかわらず、経済的な理由で学業継続が困難な学生をサポートするため、様々な奨学金制度を扱っています。ここに記載されていない奨学金もありますので、奨学金が必要となった場合はお気軽に学生課までお問い合わせください。

《日本学生支援機構奨学金》

①給付・授業料減免新制度

※住民税非課税世帯とそれに準ずる世帯が対象

新給付制度紹介HP 進学資金シミュレーター



②貸与奨学金制度

※無利子の第1種と有利子の第2種があり卒業後には返還が必要

貸与奨学金紹介HP 貸与・返還シミュレーション



◇申請資格等の詳細は、QRコードのHP等から確認してください。

◇毎年4月上旬に希望者説明会を実施予定。日程等詳細は掲示板等で案内します。

【奨学金に関する問い合わせ先】
学生課
(電話)028-670-3641
(E-mail)gakusei@sakushin-u.ac.jp

●希望者説明会:4月10日、11日、12日の昼休みに実施予定

令和4年度学位記授与式

2023年 **3月19日** 日

作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部
第2体育館(大学・短大合同)
午前10時～(受付午前9:00～)



- 【出席される方へのお願い】
- ① 次の症状が一つでも出ている場合は出席しないでください。
 - ・カゼの症状や37.5度以上の発熱がある場合。
 - ・強いだるさ(倦怠感)や息苦しさ(呼吸困難)がある場合。
 - ・味覚や嗅覚に異常を感じた場合。
 - ② 事前に必ず検温を行い異常がないことを確認し、健康観察シートに記録をとり当日持参してください。
 - ③ 自家用車で来校の場合、友だちとの相乗りは自粛してください。
 - ④ スクールバスを利用する場合には、車内での会話は控えてください。
 - ⑤ 出席の際は必ずマスクを着用してください。
 - ⑥ 欠席の場合は、代表電話(028)-667-7111へご連絡ください。



作新学院大学 総務課内 後援会報事務局
栃木県宇都宮市竹下町908 TEL028-667-7111 FAX028-667-7110



SAKUSHIN

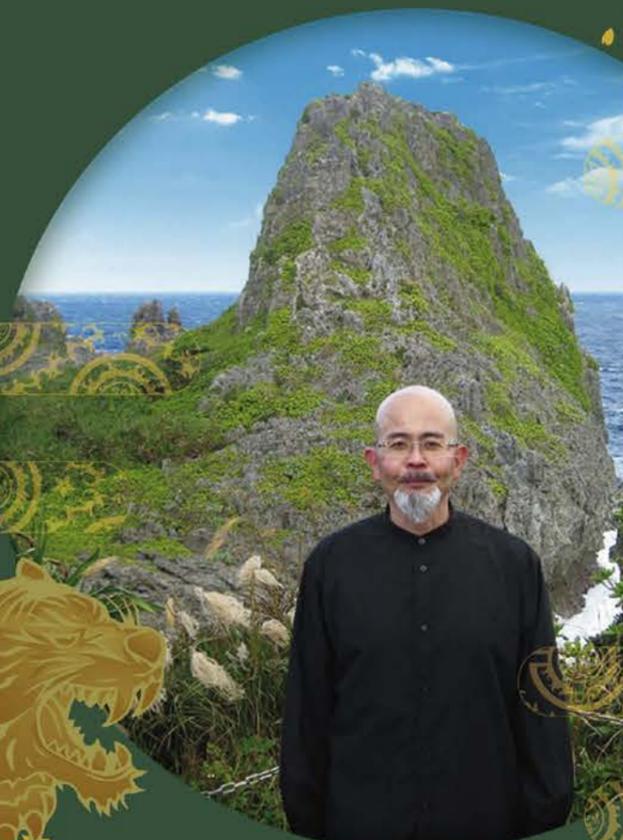
Bulletin * Support Association for Sakushin Gakuin Univ.

作新学院大学 後援会報

2023 Spring Vol.61



「専門家」ではないけれど、
その時、その時に
「専ら何かを問う」者として



SPOTLIGHT
ゼミナール紹介

人間文化学部
玉城 要ゼミ

INTRODUCTION
教員研究紹介

CAREER PLANNING SUPPORT
2023年度のキャリア・就職支援体制

CAMPUS NEWS

*資格取得者に学長表彰と奨励金授与
*教員採用試験合格者 他

強化指定部 活動紹介

*奨学金制度についてのご案内 etc...



作新学院大学
人間文化学部長

発達教育学科
教授 玉城 要

Profile

筑波大学第二学群比較文化学類卒業、同大学院博士課程文芸言語研究科単位取得中退。修士(文学)。1993年秋から1年半、中国・上海にある復旦大学で国費留学。1997年4月に作新学院女子短期大学(当時)に入職。2002年、大学に新設された人間文化学部の教員となり、2018年4月より同学部の学部長を務める。十数年前より中国の童叢書『三字経』およびその類型本の研究・教材化を進める。コロナ禍以降は「ノマドスタディ」形式授業の構築と展開に頭と時間を使っている。

「専門家」ではないけれど、その時、その時に「専ら何かを問う」者として



「専門は何か」と問われると、「分からない」というのが私の答えです。無いわけではありません。世の人々が聞いて何となく分かっていたら、大学教員として当たりさわりのない「専門」と言うのでしたら、中国古典文学、漢文学、中国語などがそれに当たるのかもしれませんが。ただ、それらを「私の専門」と口にする時、違和感があります。そしてその感覚は年を追うごとに強くなっています。

「専門」って、実は大した話ではありません。文字通り「専ら問う」。ちょっと乱暴な言い方をすれば「そればかり考えて時間を使っている」というだけです。おそらく私は、継続的に何か一つのテーマなり領域なりで時間と頭を使うのが苦手なのでしょう。だから私は、一家を成すほどの「専門家」ではありません。ただ、その時その時に「専ら何かを問う」という営みは続けています。

そういう「何を専門としているかわけが分からない教員」が担当する卒業論文指導ゼミでは、ある意味で「わけが分からない」状況が繰り返されます。

学生：「玉城先生のゼミではどんな卒論を書くんですか？」

私：「知らない。あなたは何を書きたいんですか？」

これはまだ序の口です。

学生：「えっ、卒論ってそういうのでいいんですか？」

私：「ん、なぜそういうのではいけないの？」

こういうやり取りが何度も、何人とも交わされます。

2022年度は21名の学生が集まってきました。8年生、留学生、発達教育学科の学生もいれば、心理コミュニケーション学科の学生もいます。学生の顔ぶれは多彩です。

私は、卒業論文作成指導にあたって以下のことがらを心がけています。

①学生＝「原案・原作者」／私＝「編集者・プロデューサー」

これが卒業論文作成過程における、学生と私の関係です。

②「自分で読んでおもしろい」「自分にとって意味がある」

卒業論文の内容はそれでよし。ただし、そこには話の道筋(論)が必要。

贅沢を言えば、数年後に読み返して「クスッ」と笑えるのなら大成功。

少々カッコいい言い方をすれば「セルフエスティーム(自尊感情・自己肯定感)」につながればいいのではないかと。

それでは、2022年度に21名の学生が創り出した「作品」のタイトルを以下にご紹介します。

- [01] 隅内隼人のポジティブ自伝
- [02] 変化/メタモルフォーゼ
- [03] ひとりプロジェクトX 第1章
- [04] 「らしさ」のその先
- [05] 時間術マスターに俺はなる!!
- [06] フォントの芯に築いた私
- [07] トップアスリートの共通点
- [08] 卒業できないのに卒業論文を書かなければならない男の話
- [09] 児童に対する言葉かけに関する研究
- [10] 私の来し方、今、そしてこれから
- [11] 私の妄想実現計画
- [12] 俺の稼ぎ方、俺の使い方、俺の生き方
- [13] 『呪われた死刑執行人』サンソン家についての考察
- [14] 幕が開いた向こう側ー演劇界の魅力と発展についてー
- [15] 自己責任社会への復讐
- [16] 妖怪の行動と文化や事象の関係
- [17] 老子と、今僕らが生きている社会
- [18] なぜ女性はクズな男性に惹かれるのか
- [19] 服が人に与える影響
- [20] 日本と中国の文化差異
- [21] 日本武士道文化と日本社会との関わりについての研究

いかがでしょうか。「わけがわからない」。それがまともな反応です。それでいいと思います。学生諸君が、その時々専ら「自分事としての何か」を問う。卒業論文作成が、そういう自ら問い、自ら答えを作り出す営みに伴う様々な味わいに気づく出発点になれば、編集者としての私の役割は果たせたのではないかと思います。

玉城先生の留学時代



▲留学先の復旦大学正門前で



▲留学中に空手を指導していた時に



▲ベゼクリク千仏洞で



▲トルファン郊外の葡萄溝で

私は、人々がより豊かなスポーツライフを送るためのサービスを提供する組織づくりの探求を志向し、現在は学校運動部活動の地域移行を対象にした研究に取り組んでいます。

2022年6月、2023年度から公立中学校において運動部活動が段階的に地域へ移行されることがスポーツ庁より発表されました。それに伴い、各学校や地方自治体は、これまで以上に地域社会と協働して中学生のスポーツ環境を整備する必要が出てきました。ところが、学校が立地する地域によって指導者やスポーツ団体の数、スポーツ施設数、自治体の予算等、スポーツ環境整備に必要な資源が異なるため、採用できる手段に差異が生じると予測されます。実際、下図のように、地域移行の先行事例では運動部活動の受け皿となる団体が様々であり、それぞれの地域に合った運営方法を模索していることが窺えます。

しかし、どのような団体が運営を担うのであれ、学校間・地域間によるスポーツ機会の格差を小さくして、子どもたちに可能な限り選択肢を用意することが求められます。そのために、私を含めた多くの研究者は様々な事例を調査・分析し、現場の実践にとって有益な知識を産出することで、より良いスポーツ環境を創り出すことに貢献しようとしています。



図 先行事例において運動部活動の受け皿となっている運営団体の数（スポーツ庁ホームページより筆者作成）



人間文化学部
発達教育学科
講師 石塚 祐香

私は、心理学の中でも臨床発達心理学と応用行動分析学という分野を専門としています。私たちの様々な行動がどのような環境で起こり、そして発達していくのかを研究する分野です。とりわけ、発達に偏りや遅れのある子どもたちの「ことば(聞く・話す・読む)」の学びが最大化されるための環境づくりを探究しています。環境づくりには、教室や教材といった物理的なものと、保護者・支援者・先生方の言葉かけ、表情や身ぶりでの伝え方といった社会的なものも含まれます。

私の研究では、大人が「教え手」で子どもが「学び手」となり、一方向に関わる従来の方法ではなく、まずは大人が子どもの動きやことばを「まね」することで、子どもを知ることから始める、「教え手」と「学び手」の役割交替を含んだ双方向の方法によって、子どもの「ことば」の発達を促進させることを目的としています。こうしたやりとりによって互いを知り、理解し合うことが、「ことば」の本来の学びにつながると同時に、多様性を尊重し合う現代社会における、よりよい人間関係や社会関係の構築につながるのではないかと考えています。これからも、家庭・発達支援施設・園や学校などの現場で実践可能な、子どもも大人も学び合える環境づくりについて学生の皆さんと一緒に探求し続けたいと思います。

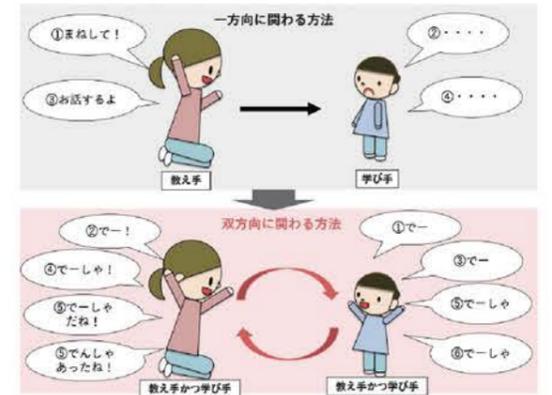


図 「教え手」と「学び手」の役割交代を含んだ双方向の方法の一例

CAMPUS NEWS

TOPIC 01 資格取得者に学長表彰と奨励金が授与されました

本学では、特定の資格を取得した学生に対し、学長表彰として表彰状を授与するとともに取得した資格に応じて奨励金を給付しています。12月22日、各種資格取得者への奨励金授与式が行われ、税理士試験、日本商工会議所主催簿記検定試験、全国経理教育協会主催簿記能力検定試験、ITパスポート試験に合格した計17名の学生に学長から表彰状と奨励金が授与されました。



TOPIC 02 教員採用試験合格者



人間文化学部 発達教育学科 4年 藤本 暁都さん
人間文化学部 発達教育学科 4年 田崎 真由希さん
人間文化学部 発達教育学科 4年 菱沼 理乃さん
人間文化学部 発達教育学科 4年 赤松 航洋さん

TOPIC 03 作新学院大学において防災士養成研修講座開講

11月26日(土)～27日(日)、作新学院大学において防災士養成研修講座を開講しました。本学は、栃木県内の大学で初めて日本防災士機構から防災士養成事業参加法人の認証を受け、平成29年度より同講座を開講し、地域の減災力向上に取り組んでいます。今回の講座では、作新大生の他、公務員や会社員、主婦やシニア世代の方など幅広い層の方々62名にご参加いただきました。講師は栃木県防災士会理事長の稲葉茂氏ら防災や気象の専門家を務め、2日目の講座終了後は、日本防災士機構による防災士資格取得試験が実施されました。



TOPIC 04 第32回作新祭が盛況のうちに終了しました



第32回作新祭はコロナ禍という事もあり、対面と遠隔のハイブリッド形式での開催となりました。3年ぶりに対面で作新祭を開催でき、とても嬉しく思います。協力してくださった皆様本当にありがとうございました。
作新祭実行委員長 寺内 史菜

強化指定部 活動紹介

サッカー部

私たちサッカー部は、本学の建学の精神である「作新民」を基盤とし、「サッカーを通じて自主・自律する」というVisionを掲げ、「挑戦・献身・辛抱」というMissionを体現するべく、活動しています。



認定証を手にリラックスした表情のメンバー
胴上げされる横濱監督

陸上競技部

私たち陸上競技部は、関東インカレや全日本インカレなど上位大会での入賞を目標に活動しています。一人一人が自分自身の技術力向上に向けて練習に取り組んでおり、先輩後輩、男女関係なく仲がよいので部の雰囲気がとても良いです。



自転車競技部

我々自転車部は、本学経営学部スポーツマネジメント学科の設立3年目である2016年度から新たな大学部活動のモデルとしてスタートしました。目標は、「明るく」「意欲的に」という2つの行動指針と「自転車を持つ大きな可能性を地域の方々に発信し、自転車競技の魅力を広げたい」という理念を持ち将来的にオリンピックや国際大会で活躍し、自転車競技界に新たな革新を起こさせるような選手育成を行うことで「作新の風」を全国に届けることです。



バドミントン部

創部8年目となり、女子は関東2部リーグに昇格し、東日本学生選手権で団体初の5位入賞、全日本学生選手権では女子団体ベスト16、女子ダブルス5位入賞、全日本総合選手権出場と全国レベルの大会で好成績を収めることができました。目標は関東1部リーグ昇格、全日本総合出場を目指します。男子は関東3部に在籍、今年こそは！と練習にも熱が入っています。渡邊一輝君が男子部員初、国内最高峰のSJリーグ参加が内定しました。



硬式野球部

私たち硬式野球部は関東甲新学生野球連盟に所属しています。主に活動はキャンパス内にあるグラウンドで行い、学年の垣根を越えて全員で切磋琢磨しながら練習を行っています。今年のスローガンは「捲土重来～現状維持は後退、常に挑戦～」と決めて創部初の神宮大会を目指して頑張ります。



令和4年 硬式野球部

部活動紹介

12月25日(日)に開催された第54回栃木県アンサンブルコンテストにおいて、吹奏楽部が木管8重奏および金管5重奏の2団体で金賞を受賞しました。2団体は1月28日(土)に開催される第28回関東アンサンブルコンテストに県代表として出場します。

吹奏楽部



栃木県アンサンブルコンテストにおいて2団体が金賞受賞!!

CAREER PLANNING SUPPORT

2023年度のキャリア・就職支援体制

理論で学ぼう! 自己PR編

1 1年生のキャリアデザイン1の授業

経営学部 担当 特任教授 杉本 育夫

キャリアデザイン1の講義は、大学時代と大学から先の人生を様々な角度から、自分のキャリア形成を軸に学生に見つめなおしてもらいたいというのが、ねらいである。そのため、様々な分野で活躍している著名な人たちからの講義が中心となっている。

人間文化学部 担当 教授 玉城 要

シラバスの「授業の到達目標及びテーマ」をそのまま掲載します。どんな授業なのか、ご想像ください。

- ①可能性は無限大かもしれないけれど、人生の時間は有限であると気づく。
 - ②生き方は一つではない。360度、どこに足を踏み出してもかまわないと気づく。
 - ③多様な人が生きてい中で、自分とも他人とも「折り合い」をつけていく「ゆとり」と「心のよわらかさ」を知る。
 - ④どこかにある(と思い込んでいる)自分をさがすのではなく、今ある自分を材料に、今はない自分を作っていく。そのために何をどうするかを意識する習慣を持つ。
 - ⑤とにかく、動け。
- 「キャリア」ということばを「今・ここ・自分」を軸にとらえてみてください。あなたの「生き方」「あなたの在りよう」に関わるすべてが「あなたのキャリア」です。「先が見えない世の中」。別に今に始まったわけではありません。先が見えた時代なんか人類の歴史にありません。変動、不確定、複雑、曖昧が現代をとらえるキーワードと言えます。あるかどうか分からない人生のルールやゴールなんか気にせず、あなたが自分の人生の「スゴロク」を自由にプレイする時代は始まっています。用意、ドン! (「スゴロク」の意味が分からない人はググってください)



2 2年次必修のプレインターンシップ

プレインターンシップとは、インターンシップの準備科目です

インターンシップとは、企業や団体などで就業体験をする制度です。本学では、毎年多くの学生がインターンシップに参加し、働くことの意味を発見したり、自分に向いている仕事は何かを自己確認する機会を得ています。2年次必修科目の「プレインターンシップ」は3年次選択科目の「インターンシップ」を履修するための準備科目として位置づけられており、大学の授業で身に着けた知識と技術を1~2日間のインターンシップ(昨年度は希望者のみ)によって実践し、将来の就業に向けた適応度合いと不足能力を自己確認することが到達目標です。

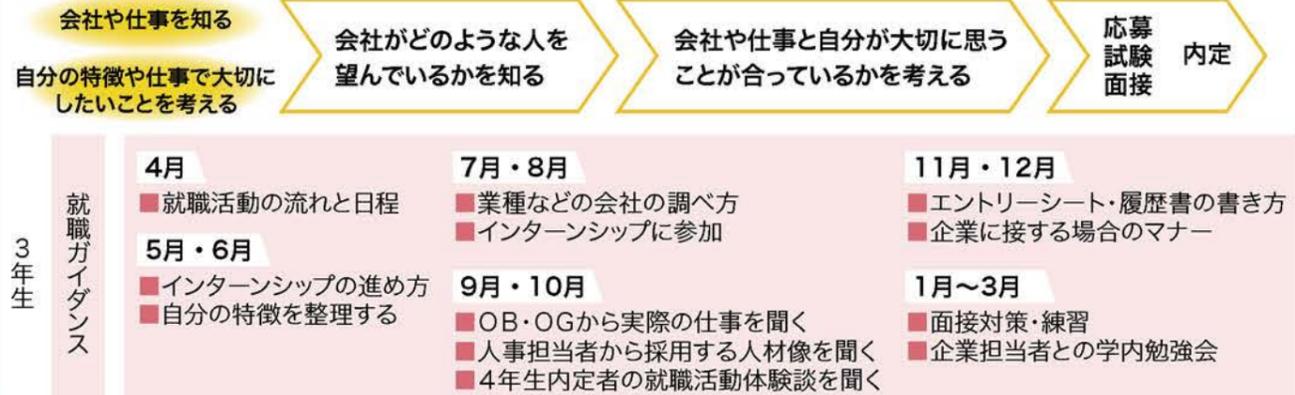
共通テキストを使用して、インターンシップの基本を学びます

- 多くの学生は、インターンシップに関する知識がほとんどありません。共通テキストを使用して、インターンシップの基本を学びます。学ぶ内容は、以下の通りです。
- インターンシップとは何か? なぜ必要なのか?
 - インターンシップの選び方、応募の仕方
 - インターンシップ参加に必要な知識とマナー
 - インターンシップ参加後の取り組み
- 共通テキストを学習することによって、インターンシップ、就職活動に必要な知識を身につけることができます。



3 3年生の就職ガイダンス

3年生は、具体的に自分はどのような仕事を選びたいかを考える時期になります。沢山の給料がもらえる仕事、面白い仕事、先輩が親切そうな会社、定年まで勤められる会社など様々な条件を考えるとします。就職ガイダンスでは、自分が大切にすることを整理したり、自分が毎日その仕事でどのような働き方をしているかのイメージをはっきりさせていくために、1年間じっくり考えていきます。



このコーナーでは、保護者の方にも就職活動についての考え方をご理解いただくために、大学で学生の皆さんに指導している内容を取り上げていきます。

1 大学生で“頑張ったこと”を考える

あなたは、大学生活で何を頑張りましたか?

就職試験では「大学生活で頑張ったことは何か」を、質問される場面が必ずあります(これは就活の3大質問と言われ、他に「自己PR」「志望動機」があります)。ではなぜ、頑張ったことを聞かれるのでしょうか。それは、企業の採用担当者が、大学生活で頑張ったことを通して入社後、その会社でどのくらい活躍できるか判断材料とするからです。

どんな能力を発揮したのか



私は、こんなときにこう頑張りました。



学生のとき、頑張って発揮した能力は、我が社の仕事でも同じように使えるはずだ。

我が社で発揮して欲しい能力

学生のとき、一生懸命に頑張った行動を聞いてみよう!

この学生は、我が社で活躍してくれるだろうか?

活発型もじっくり型も強みになる

活発型



じっくり型

面談で、学生からこんな話を聞きました。「運動部の人は、いろいろアピールできていいですね!私なんか毎日じみーに大学に来ているだけなんです。」でも、よく考えてみてください。毎日遅刻せずに授業に出て、予習復習で準備をして、ゼミでしっかり発表できたんでしょう。素晴らしい能力じゃないですか!企業ではコツコツとやりきる人も必要なんです。それを自信を持ってアピールできませんか。

2 就職最前線2023

内定おめでとう!!



経営学部 経営学科 佐藤 実夢さん

私は就活ノートを作って企業研究をしました。ホームページをコピーして企業の強みや魅力を感じた部分にチェックをつけて纏めました。自己分析は、友人に自分の特徴を聞くことで客観的に行いました。そして、何より沢山、面接練習しました。その中で、新たな強みが発見でき自信に繋がりました。どんな質問にも対応できる力も身に付きました。さらに、企業によっては面接終了後にフィードバックしてくれることもあるので、他社の面接で役立ちました。私にとって就活は貴重な体験となりました。人として成長もできたと思います。就活して良かったです。

(広告会社内定)

内定おめでとう!!

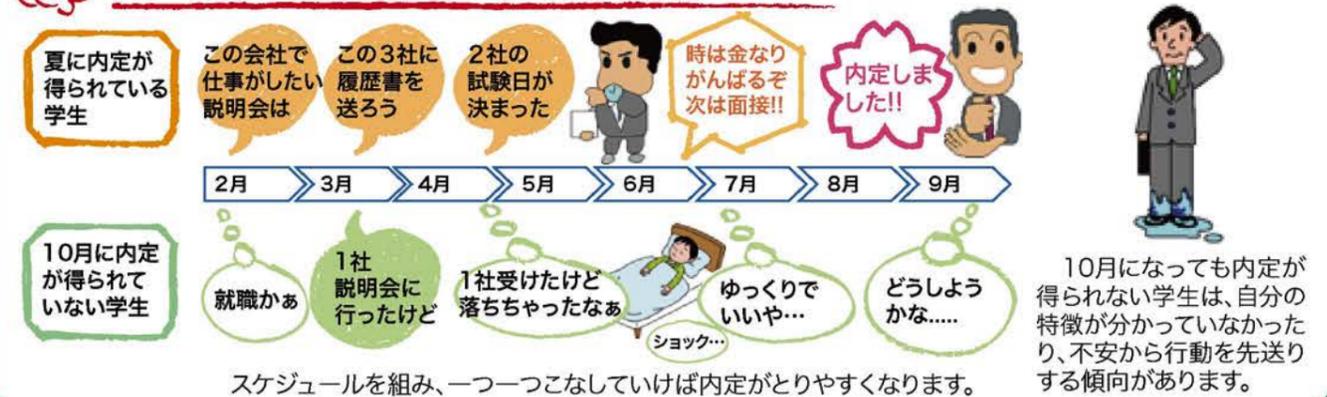


経営学部 スポーツマネジメント学科 亀田 英孝さん

公務員試験対策としてまず教養試験は、数的推理と判断推理を中心にひたすら過去問を解きました。私は本番で、全部の問題を解くのに時間ギリギリまでかかってしまい、確認する時間がとれませんでした。後輩の皆さんには、時間配分を考えながら問題を早く解く練習をおススメします。次に面接試験では、自分がやりたいことを積極的にアピールしましょう。その思いは必ず面接官に伝わります。一方、応えたことを深く追及されることもあるので、浅い考えでは対応できません。考えをしっかりと纏めておくこと、そして面接練習が大切です。

(公務員試験合格)

内定が得られる学生と得られない学生はどこが違うの?



※撮影のため、マスクを外しています。